

# **総務省における 医療・介護・健康×ICTの取組 (スマートプラチナ社会推進会議 検討の方向性)**

---

**平成26年5月23日  
総務省**

## 1 背景・目的

- 世界に先駆けて超高齢社会を迎えた我が国は、経済活動や社会保障制度、国民生活、地域コミュニティ等の在り方について、従来の政策手法では対応できない課題に直面している。これらの課題を解決し、社会に新たな価値をもたらす原動力として、距離や時間の問題を克服できるICTが持つ「ネットワーク力」への期待が高まっている。
- このような状況を踏まえ、総務省では、超高齢社会がもたらす課題を解決し、新たな社会モデルの確立に向けたICT利活用の推進方策を検討するため、「ICT超高齢社会構想会議」を開催。平成25年5月「ICT超高齢社会構想会議報告書－『スマートプラチナ社会』の実現－」を取りまとめた。
- 本会議は、上記報告書を踏まえ、スマートプラチナ社会の実現を早期かつ着実に図るべく、社会モデルの構築と全国展開に向けた実務的課題の解決等、より具体的に検討することを目的とする。

## 2 構成員

(敬称略、座長、座長代理を除き50音順)

| 氏 名             | 役職等                      |
|-----------------|--------------------------|
| 小宮山 宏<br>(座長)   | (株) 三菱総合研究所理事長、前東京大学総長   |
| 小尾 敏夫<br>(座長代理) | 早稲田大学電子政府・自治体研究所所長・教授    |
| 秋山 弘子           | 東京大学高齢社会総合研究機構 執行委員 特任教授 |
| 浅川 智恵子          | 日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所フェロー    |
| 飯泉 嘉門           | 徳島県知事                    |
| 小倉 真治           | 岐阜大学大学院医学系研究科救急・災害医学教授   |

| 氏 名    | 役職等                                               |
|--------|---------------------------------------------------|
| 金子 郁容  | 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授                             |
| 清原 慶子  | 東京都三鷹市長                                           |
| 西村 周三  | 国立社会保障・人口問題研究所長                                   |
| 広崎 膨太郎 | 前日本経済団体連合会知的財産委員会企画部会長<br>日本電気株式会社特別顧問            |
| 武藤 真祐  | 医療法人社団鉄祐会合 祐ホームクリニック理事長、<br>一般社団法人高齢先進国モデル構想会議理事長 |

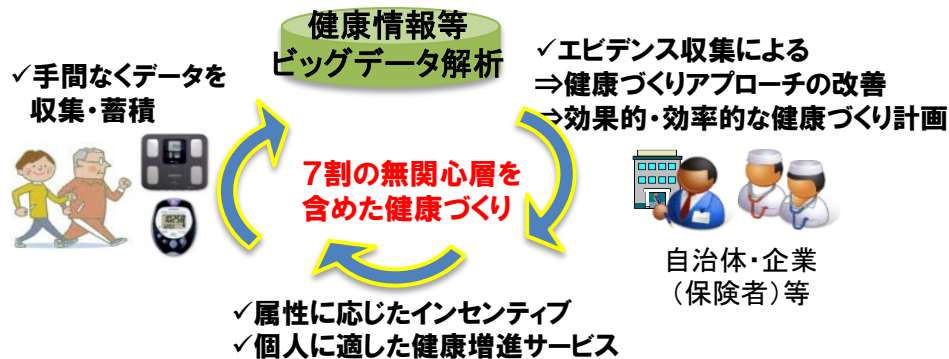
## 3 検討スケジュール

- 平成25年12月から開催し、これまでに4回開催。

- 健診データやレセプトデータ等のビッグデータ解析で、より質の高い健康サービスが享受可能に
- 健康ポイント等のインセンティブ付与による健康づくりで、無関心層を含む国民全体の健康維持・増進
- 医療・介護・健康分野のデータを共有・活用することで、病院が代わっても以前と同じ診療が可能に
- 在宅医療・介護の標準化により、住み慣れた環境で自分らしい暮らしが可能な地域包括ケアを実現

## ICT健康モデル(予防)の確立

### ビッグデータ解析による健康づくり



### 住まいを軸とした健康づくり

モデル①  
地方型地域活性化モデル



モデル②  
都市型民間サービス活用モデル



### 職場を軸とした健康づくり

モデル③  
転職・退職継続健康モデル



モデル④  
ご家族健康モデル



## 医療・介護情報連携基盤の全国展開

### EHRミニマム基盤モデル等

#### ■ EHRミニマム基盤モデル

- ✓ クラウドを活用した高品質で低廉なミニマム医療情報連携基盤
- ✓ 既に多くの医療機関等で導入されている診療報酬請求システム(レセプトコンピュータ)等を活用することで低廉化  
→ 診療所を含めより多くの関係機関の参加を促進



#### ■ 在宅医療・介護クラウド標準化モデル

- ✓ 在宅医療・介護における共有する情報項目とシステムを標準化(在宅医療・介護の関係者間での連携を可能に)
- ✓ 中小の診療所も導入しやすいクラウドを活用した低廉モデル  
→ 規格の乱立を防ぎ、情報共有を可能に

- ネットワークロボット、ウェアラブルセンサーや非接触モニタリング等の技術の活用によるさらなる健康づくり(例えば、健康情報や医療・介護情報等とコミュニケーションロボットをつなぐことによって認知症等の重症化を予防)。
- コミュニケーション／ネットワークロボットを通じた高齢者の情報の受発信機能サポートによる、安心できる生活環境の実現と高齢者の社会参加促進。

## 予防×ロボットモデル

### 例 ネットワークロボットやウェアラブルセンサー等を活用した健康づくり

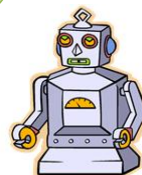
#### 【現状課題】

- 高齢化による認知症高齢者の増加と介護負担の増加
- 早期受診・対応の遅れによる認知症状の悪化
- 地域における支援体制が不十分
- 医療・介護分野の連携体制の構築
- ...その一方で
- 60%以上の国民が「自宅で療養したい」  
(住み慣れた地域で可能な限り生活を続けたいニーズ)



本日の天候と体調から  
たまにはこんな  
体操もいかがでしょう

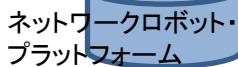
今日は暑いからいつもより  
水分を多めにとってください  
その際、お薬も忘れずに



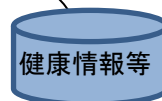
ネットワークロボット



タブレット型



ネットワークロボット・プラットフォーム



健康情報等



ウェアラブルセンサー、非接触モニタリング

- ✓ 会話量の増加による認知機能訓練
- ✓ センサー等による体調管理と健康維持
- ✓ 住み慣れた地域における自立生活の継続 等

- ✓ 服薬管理
- ✓ 健康管理
- ✓ 異常検知
- ✓ 癒し効果 等

- ✓ ウェアラブルセンサーや居住スペースに設置した非接触モニタリング等から健康情報を収集
- ✓ 収集した健康情報とネットワークロボットを連携させてコミュニケーション、体調等の管理・見守り
- ✓ ネットワークロボット・プラットフォームの構築によりロボット端末によらず継続的な健康づくりサービスの提供

- ✓ 要介護者の健康状態の把握
- ✓ 早期異常検知、重症化予防
- ✓ 業務連携によるサービスの質向上と負担軽減
- ✓ ネットワークロボット・プラットフォームによる認知症予防・ケアノウハウの蓄積

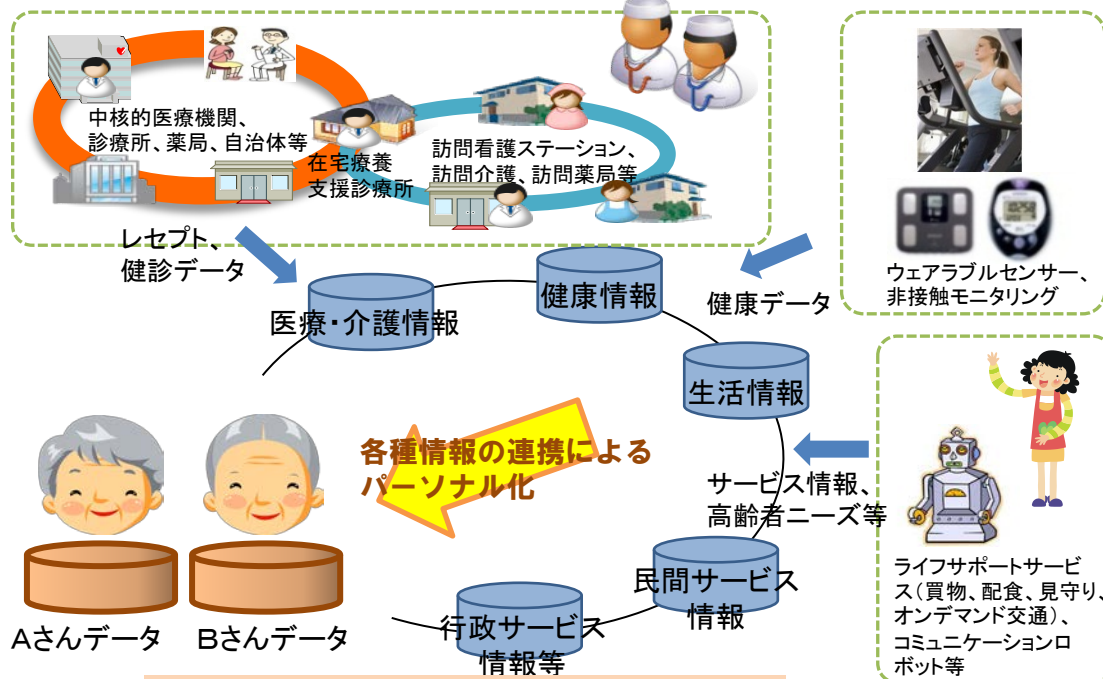
- ✓ ネットワークロボットやウェアラブルセンサー等を活用し、医療・介護・健康等分野の連携により、住み慣れた地域でアタマとカラダの健康づくり

- ✓ 安心できる生活環境の実現と高齢者の社会参加促進

- 健康情報や医療・介護情報、さらには生活情報等を連携させるプラットフォームを構築することにより、一人ひとりを軸とした各種サービスを有機的に連動。そのための健康データポータビリティを実現。
- 住宅に備えたセンサー等により住人の健康状況を把握しつつ、見守り等ライフサポートサービスを提供。

## 健康・医療・介護等関連分野での総合的データ連携モデル ースマートプラチナプラットフォームの実現ー

- 健康情報や医療・介護情報、生活情報等を連携させるプラットフォーム(スマートプラチナプラットフォーム)を構築。
- 一人ひとりを軸とした各種サービスの有機的な連動、蓄積されたデータをパーソナリゼーションし本人による利用等を可能に。
- 健康情報や医療・介護情報を基にした、よりきめ細かな予防サービスやライフサポートの提供などによる地域活性化、新サービスの創造。

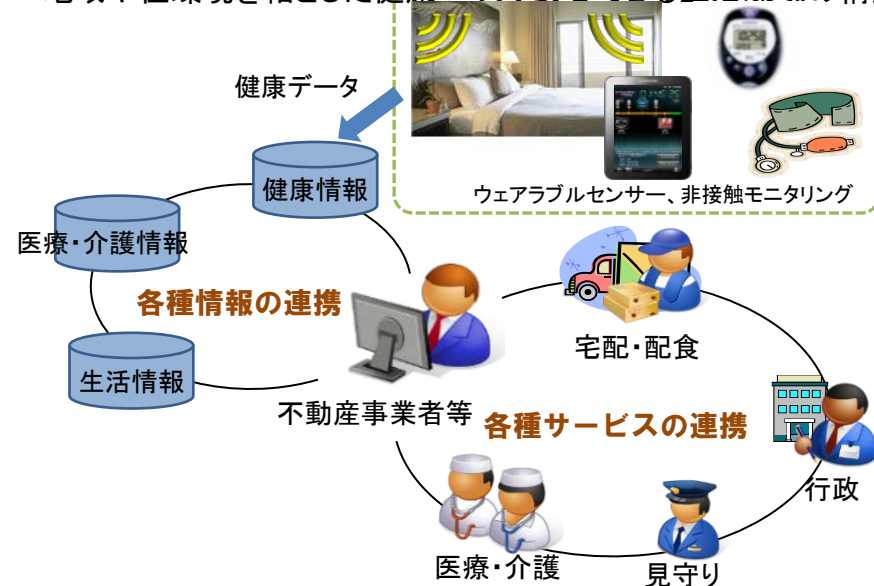


スマートプラチナプラットフォーム

## ICT健康住宅モデル

- 在宅医療・介護は、2025年に750万人超
- 世帯主が65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯が増加
- 一方、60%以上の国民が「自宅で療養したい」  
(住み慣れた地域で可能な限り生活を続けたいニーズ)

- 地域における医療・介護等の関係機関連携の重要性
- 地域や住環境を軸とした健康づくり、安心できる生活環境の構築



不動産事業者等による地域や住環境を軸とした健康づくり、安心できる生活環境の構築

今後、内閣官房健康・医療戦略室等の関係省庁と連携して推進